鎌倉市鏑木清方記念美術館 令和6年度(2024年度)第3四半期実績評価

1 利用の承認等に関する業務(第1号)

- ・この四半期の来館者数は3,933人で、昨年度の同四半期来館者数4,287人との比較で354人、約8.3%減少した。
- ・特別利用の申請に対し、適正に対応した。(承認件数: 原版使用3件)

2 施設及び設備に関する業務(第2号)

- ・保守点検及び清掃について、適切に実施した。
- ・年度協定書で定める1件あたりの額(20万円)以下の不具合については、指定管理者の負担により適切に修繕を実施した。

3 鏑木美術品等の収集、修復、調査研究等に関する業務(第2号)

- ・美術品の適切な温湿度管理を実施した。
- ・作品棚卸し(所在確認)を10月17日、11月15日、12月18日に実施した。
- ・鏑木清方の日記について翻刻を行った。
- ・鏑木清方や関連人物・事項について調査を行った。

4 美術館の事業の企画及び実施に関する業務(第3号)

- ・10月1日から22日までは、前四半期から引き続き、企画展「日本画ができるまで—鏑木清方の制作風景—」を開催した。10月26日から12月1日までは、特別展「あふれる詩情と浪漫—鏑木清方と中澤弘光—」を開催し、美術館では初となる西洋画の展示を行った。12月7日から28日は、企画展「清方一家のお正月—明治・東京の年末年始—」として、年末年始恒例の挿絵羽子板の展示を行いつつ、清方が新春の風情に取材した作品等を紹介した。

- ・講演会やワークショップを開催し、教育普及に努めた。

(実施内容)

- ・展示解説 合計15回(参加者232人)
- ・川喜多映画記念館との連携企画「芸術の秋! 記念館をめぐる展示解説ツアー」10月8日、11月7日、30日(52人)
- ・日本画ワークショップ 10月19日(24人)、12月15日(17人)
- ・北鎌倉葉祥明美術館・鎌倉歴史文化交流館との連携企画「北鎌倉・鎌倉ミュージアム散策」11月9日(34人)
- ・美術講演会「清方と洋画家たちの作品からひもとく近代のよそおい」 11月12日(28人)
- ・日本画制作実演 11月16日、17日(57人)
- ・10月4日に佐助保育園の見学受入れ。(園児18人、引率2人)
- ・10月30日、11月7日に中学生インターン受入れ。(実習生4人)
- ・12月7日に逗子開成中学校・高等学校へのアウトリーチ実施。(生徒4人、教諭1人)
- ・各教育機関、団体等へ講師派遣を行った。
- ・チラシ、ポスター等の作成及びSNSの活用により、美術館の活動周知を積極的に実施した。

5 その他市長が定める業務等(第4号)

- ・法令を遵守し、適正な美術館の運営を行った。
- ・定められた期日までに例月の指定管理業務報告書を提出した。
- ・市と連絡調整を適切に行った。

6 全体評価

・この四半期の来館者数は3,933人で、昨年度の同四半期来館者数4,287人との比較で354人、約8.3%減少した。第1四半期からここまでの来館者数は11,962人であり、年間目標来館者数2万人の達成は厳しいと言わざるを得ない。広報の見直し等、一層の工夫をされたい。一方で、11月の来館者数は前年度比108%となっており、これは特別展「あふれる詩情と浪漫—鏑木清方と中澤弘光—」の影響が大きい。清方と同時期に活躍し、清方から高く評価された中澤弘光を取り上げ、両者を並べて日本の風景や女性の美への視点を紹介した本展覧会は、美術館で初となる西洋画の展示という意欲的な内容だった。中澤弘光や西洋画といった切り口から興味を持ち、初めて来館された方も多かったと思う。これまで、弟子など清方以外の作品を紹介することがあったが、並べて鑑賞することで分かる清方作品の新たな魅力もあり、今後も多様な展覧会を柔軟に企画されたい。展示以外の業務については、例年通り近隣館との散策ツアーや美術講演会、日本画制作実演、インターン受入れなどが実施されている。いずれも安定した数の参加があり、美術館の事業が定着していることが伺える。外部機関への講師派遣も積極的に行われており、来館者数が増えない状況ではあるが、鏑木清方の専門美術館として教育普及及び調査研究の成果は広く評価されているといえるだろう。

・作品及び資料の調査研究を引き続き計画的に進めるとともに、その成果をより多くの方々に伝えていくよう積極的に取り組まされたい。

・施設の維持管理業務に関しては、日常点検をはじめ、各種定期点検を計画的に実施している。市への報告も徹底されており、適切な対応が取れている。

※評価の項目は条例第4条第1項の各号に準じる。

鎌倉市鏑木清方記念美術館 令和6年度(2024年度)第3四半期判定評価

評価の視点	評価判定項目		評価結果	減点
利用の承認等に関する業務(第1号)	利用者対応	利用料金を適切に徴収し、帳簿を作成している。	○	
	特別利用	申請に対し適正な承認を行っている。	○	
施設及び設備に関する業務(第2号)	管理	設備の保守や清掃等を行い、施設を適切に管理している。	○	
	点検	定められた点検について適切に実施している。	○	
	修繕	不具合箇所を放置せず、必要に応じて修繕を実施している。	○	
鏑木美術品等の収集、修復、調査研究等に関する業務(第2号)	収集管理	収蔵美術品の所在を明確に管理し、新たに収集した美術品等についても適切に対応している。	○	
	保存修復	収蔵美術品を適切な環境で保存し、必要に応じて修復を行っている。	○	
	調査研究	計画どおりに調査及び研究を行い、その成果を公開している。	○	
美術館の事業の企画及び実施に関する業務(第3号)	展示	計画どおりに展覧会を開催している。	○	
	展示以外の事業	美術館の設置目的を達成するために必要な業務(教育普及活動など)を行っている。	○	
	周知活動	美術館及び展覧会の周知を積極的に実施している。	○	
	業務内容向上	来館者のニーズを把握し、反映に努めている。	○	
その他市長が定める業務等(第4号)	事務処理	市に対し、定められた期日までに報告書を提出している。	○	
	報告	市との連絡調整を適切に行い、協議を行った事項については確実に実施している。	○	
	トラブル対応	来館者や近隣との間にトラブルが生じた場合、適正な対処をすると同時に、市への報告が適切に行われている。	○	
	危機管理体制	事故、災害時の緊急時の連絡体制整備、対応措置、市への報告が適切に行われている。	○	
	人員体制	事業計画書等に即した適正な人員及び資格者を配置し、人員に対して研修等自己啓発の努力がなされている。	○	
	経理事務	固有の口座を保有し、適正な会計処理を行い、光熱水費等を滞納していない。	○	
	個人情報保護	個人情報の漏えい、滅失等の事故防止対策を講じている。	○	
	法令等遵守	法令・条例等に基づき必要な点検・報告等を行っており、業務上知り得た情報を第三者に漏洩していない。	○	

※評価の視点は条例第4条第1項の各号に準じる。

0

実施されている場合・・・○ 実施されていない場合・・・× ※×1つにつき5点とする。

特記事項

減額率	
減点の合計	減額率
10～15	5%
20～25	10%
30～	20%